

## 川崎市市民ミュージアム資料等収集懇談会（写真部門）会議録（摘録）

1 日 時 令和7年1月24日（金） 14時00分～15時30分

2 場 所 川崎市役所本庁舎19階1901会議室

3 出席者

（1）委 員 圓井委員、関次委員

（2）事務局 川崎市市民ミュージアム 磯崎担当課長、奥沢担当係長  
オブザーバー 中野学芸員

- 4 次 第
- 1 開会
  - 2 懇談会概要説明
  - 3 今回収集を予定している作品について
  - 4 意見交換（資料収集方針との適合性や芸術性などについて）
  - 5 その他
  - 6 閉会

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴者 0名

### （次第一） 開会

（会議進行等説明等）

### （次第二） 懇談会概要説明

（資料1、2-1、2-2について説明）

### （次第三） 今回収集を予定している作品について

（資料3-1、3-2について説明）

#### (次第一４) 意見交換（資料収集方針との適合性や芸術性などについて）

圓井委員

今回の収集予定作品及び収集理由は、貴館の資料収集方針等に合致するものだと考えられるので特に異論はございません。

関次委員

今回の御提案については、いずれも国内外の評価が高く、かつ国際的に活躍している作家であり、国際都市川崎が収集すべき作家であると評価でき、川崎市のコレクションにふさわしい作品群であると理解しています。

特に、北島敬三氏の作品は、川崎を表現した貴重な作品で、川崎市ゆかりの作品としての評価も高いと思います。

ちなみに、オノデラユキ氏の作品のプリント年はいつでしょうか。

事務局

令和５年になります。

圓井委員

木村伊兵衛写真賞受賞作家からの寄贈点数のバラつきに関しては、過去の経緯として大元の寄託点数がベースにあるということで、このバラつきはやむを得ないと理解しました。一方で、寄託から寄贈に変わるのであれば、それぞれの作品の収蔵点数を増やしていくことで全体像が見えるようになり、より有効な展示が可能になるとも思いました。

関次委員

今後の収集に関する計画は設定されていますか。

事務局

写真分野では、鶏卵紙やゼラチンシルバープリント等の 19 世紀写真、「現代日本の写真家 100 人」コレクションや木村伊兵衛写真賞受賞作品といった 20 世紀写真の修復を進めてきましたが、「現代日本の写真家 100 人」コレクションに関しては、物故作家等のリプリントを断念せざるを得ない状況があります。木村伊兵衛写真賞受賞作品に関しては、今回の収集が最後の群であり、大半においてリプリントの目途が立ったという状況です。また、今後の具体的な収集に関しては、現在、新たなミュージアムの整備に向けた取組を進めており、新たな収集方針の策定を予定しているところです。

圓井委員

資料収集方針は、これまでにどのような変更の経緯があったのでしょうか。

事務局

開館時には、収集方針に加え具体的な作品名や作家名も記載されていたが、その後、具体的な作品名や作家名が省略され、現在のような概念的な表現に変わったが、大きな考え方自体は現在に至るまで変わっておりません。

圓井委員

収集方針が大幅に変わってしまうと、過去に収集した作品の位置づけが曖昧になる可能性、否定すべき対象になる可能性もあるので、開館以降に続けてきた方向性を失うことはないように、その方向性を踏まえた上で時代にふさわしい言葉の使い方に修正をするのが良いかと思いました。

事務局

過去を否定せずに、未来に向けた新たな方向性をどう表現するか、グラフィック、映画・映像、写真、漫画など、それ以上でもそれ以下でもない作品をどう包含させるかは悩ましいところです。写真にも映像作品があるし、現代のグラフィックはデジタルサイネージ等にもなっているので、表現の仕方が変わってきているということもあります。

関次委員

今後、資料収集に関する懇談会は定期的を開催する予定でしょうか。

事務局

開催する可能性はあるが、写真分野の木村伊兵衛写真賞受賞作品の寄贈に関しては今回で一旦収束します。また、北島氏とオノデラ氏の作品に関しても、当該作家の木村伊兵衛写真賞受賞作品のリプリントに関連した案件であったため、写真分野の懇談会の開催は現段階では未定の状況です。

#### **(次第一５) その他**

(特になし)

#### **(次第一６) 閉会**